令和５年度　新庄市総合教育会議

「小中義務教育学校における『ふるさと学習』の推進」

学校教育課

１　新庄市教育大綱（第５次新庄市総合計画教育部門より）

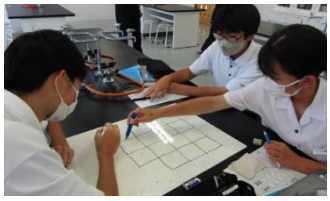
施策２

地域に根ざした学校づくりの推進

国では、「地域とともにある学校」を目指し、新学習指導要領の理念として「社会に開かれた教育課程」を掲げている。地域と協働して学校づくりを推進する必要があり、その施策の一つとして、すべての学校における「ふるさと学習」への取り組みと、その充実を図っていくものである。

「地域とともにある学校づくり」施策として

① **ふるさと学習の充実**
② 地域との交流活動の中で学ぶ取り組みの推進
③ コミュニティースクールの推進
④ 授業、行事等における地域人材の活用



＜１０年後の目指すべき状態＞

「児童生徒が地域に関心を持ち、良さを理解し、
ふるさと新庄への愛着が育まれている」

【指標】

指　　標　　名	現　状　値	
	２０１９年	２０２２年
「地域の行事に参加している」と答えた児童生徒の割合　（出展：全国学力学習状況調査）	（小）89.5% （中）78.4%	（小）79.8% （中）58.3%
「新庄や自分の住んでいる地域が好きだ」と答えた児童生徒の割合　（出展：学校評価）	（小中） 89.2%	（小中） 84.6%

⇒　2019 年に比べ 2022 年では、「地域の行事に参加している」「新庄や自分の住んでいる地域が好きだ」ともに低下している。特に「地域行事への参加」は大きく数値を下げた。これについては、コロナ禍の影響が非常に大きいと言える。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、地域行事が中止となり、特に新庄まつりの中止や開催制限が大きく背景にあると考えられる。

２　ふるさと学習推進事業

令和５年度 新庄市教育委員会「教育の重点」として、「各中学校区で連携し、地域の素材を生かしたふるさと学習を推進し、「新庄」に誇りを持つ児童生徒の育成を図る」としている。

＜各校における取り組み＞

総合的な学習の時間（小学校３年生以上）や生活科（小学校 1.2 年）を中心として、教科横断的に、各校が計画的に取り組んでいる。

> 「総合的な学習の時間」（文部科学省）
>
> 総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしていることから、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものである。

【テーマ例】

① 歴史・文化・伝統
「新庄まつり」「東山焼き」「亀綾織り」「松田甚次郎」「隠明寺凧」「わら細工」「昔語り」「田植え踊り」「八向楯」「戸澤正盛公」「新庄藩」「戸澤神社」など

② 生活・産業
「１００円商店街」「米作り」「地域の事業所・企業」「伝承野菜」「伝統料理」「新庄の農業」「サクラマス」など

③ 自然・環境
「指首野川水生生物・水質調査」「イバラトミヨ」「新庄の四季」「升形川」など

④ 観光・交流
「最上公園」「ふるさとの発展目指すＣＭ・動画制作」など

⑤ 地域・まちづくり
「住みよい町づくり」「市立図書館」「まちたんけん」「福祉と健康」「郷土ＰＲ」「地域のＳＤＧｓ」「新庄市を元気にする」「地域とどう関わっていくか」など

⑥ 行政
「公共施設」「福祉施設」「福祉から考える誰もが住みやすい町」など

【活動例】

① 探究テーマ　⇒　ふるさと新庄の何について探究していくか、テーマを決定する。
② 課題設定　⇒　テーマについて学ぶなかで、中心となる課題を設定する。
③ 情報収集　⇒　見学・訪問・調査などを通して、必要な情報を収集する。
④ 探究　⇒　仲間と対話を通して協働的に考える。問題解決のために論理的に思考する。
⑤ まとめ　⇒　具体物を作成したり、タブレットＰＣを活用し、結果や成果、提案をまとめる。
⑥ 表現・発表　⇒　下級生や、地域の方々、保護者、市職員、職場・企業の方々に探究の成果を発表・提案する。 ※ 教育の日「ふるさと学習発表会」など

３　新庄市教育の日「ふるさと学習発表」

新庄市ＰＴＡ連絡協議会において、各校の「ふるさと学習」について話題となり、学校毎に特色のある取り組みについて、子どもたちの学習成果として発表の場を設けることとなり、令和元年度より、毎年１１月に行われている「新庄市教育の日」記念行事において、数校ずつ発表することとなった。途中コロナ禍で、記念行事の中止もあったが、今年度で市内すべての小中義務教育学校が発表することとなる。

「新庄市教育の日『コスモスデー』」（設置要綱より）

次代を担う子どもたちの人間性や社会性を豊かに育んでいくため、全市民を挙げて教育を見つめる機運を高めるとともに、家庭・地域・学校が連携し、市民が一丸となって子どもたちの成長を見守り、よりよい教育環境を築き上げることを期する日として、新庄市教育の日「コスモスデー」を設ける。

【主なイベント】

・ふるさと学習発表会

小中義務教育学校の「ふるさと学習」発表会。毎年数校ずつ発表し、今年度で市内の小中義務教育学校が一回りする。

・いきいき夢ステージ発表

「保育所・幼稚園 幼児発表会」「新庄南高校 演劇部発表」「子供芸術学校 発表」「山形大学エリアキャンパスもがみ 発表」など

・だがしや楽校（体験ブース）

「ワークショップ」

市青少年育成推進員会、市青少年市民会議、市立図書館、地区少年補導員連絡会、最上広域教育研究センター、社会教育課、学校教育課 ALT など

４　これまでの成果・課題

【成果】

①　すべての学校の、すべての学年において、ふるさと学習が行われている。このことは、児童生徒が地域に関心を持つことに繋がり、地域について主体的に考える機会となっている。

②　毎年行われる全国学力学習状況調査の結果を見ると、「地域への関心」「地域行事への参加」について、全国平均に比べて、新庄市の児童生徒の数値は非常に高い結果が出ている。

③　新庄まつりへの児童生徒の参加は、非常に主体的で、参加して体験した満足感や達成感を得ている。各校においても、児童生徒はもちろん、教職員へも積極的にまつり参加を呼びかけている。 ※ まつり期間は学校閉庁

④　各校には「地域学校協働活動推進員」が担当として関わり、各校の要請により、ふるさと学習等における地域資源や地域人材について、学校に紹介したり、アドバイスするなど、地域と繋ぐ役割を担っている。（←課題②） 別紙１

【課題】

① 小学校で取り組んだ内容を中学校でも扱うこととなると、生徒の意欲が高まらない。中学校区毎に小中それぞれどのような取り組みを行っているのか、連携して共有し、発達に合わせた取組内容をともに考えていく必要がある。

② 各学校区の中にある物事について調査し、考えていくことが多くあるが、教員が学校区の資源や人材について、詳しく把握していることは難しい。地元の地域資源や地域人材に繋いでくださる方が必要だ。（←成果④）

③ 「調べる」「考える」で終わらず、「発表する」「提案する」というアウトプットを大事にしているが、「発表・提案」で終わってしまい、それが関係機関で実際にいかされるような成果が得られないのは、児童生徒が「達成感・成就感」としては物足りなさを感じている。

5 これからの「ふるさと学習」

＜学校からの声（要望等）＞

（情報提供）

・ 調べ学習を進めていく上で、新庄市を調べるコンテンツが少ない。子ども向けの「新庄紹介サイト」を制作することで、情報リテラシーを高めながら、楽しんで調べることができるのではないか。
　また、校外学習が可能な施設や職場、専門家など、すぐにわかる一覧などがあると便利だ。

・ 平素の情報が少ないため、新庄市の課題も含め、市の現状についていろいろな話、考えを伺いたい。探究活動に向けて、多様なテーマを設定していきたい。

（学校と地域を繋ぐ）

・ 学習活動に助言していただく方や外部と繋いでくださるコーディネーターの存在が重要。現在の地域学校協働活動推進員の活用は有効で、今後も継続、可能な限りの学校滞在をお願いしたい。滞在が少なく、相談する機会がもっと必要だ。

・ 探究活動を進めていく際に、それぞれのテーマに精通する地域の方々の協力を得ることが難しい。

（発表・提案をいかす）

・ 市への提言があった際は、できる範囲でそれを取り入れてほしい。子どものやる気に繋がる。

・ 発表、プレゼンテーションの際、市の関係各課や関係企業等から話を聴いてもらいたい。そしてアドバイスをいただきたい。

（活動支援）

・ 校外において活動する際に、スクールバスを利用するが、配当時間をもっと増やしてもらえると、より思い切った活動ができる。

・ つばさ支援事業を活用し、活動の際の講師謝礼や材料購入に充てている。今後の有効な活動に向けて、つばさ支援事業の継続と増額をお願いしたい。

＜今後の方針・めざす姿＞

① 学校と地域を繋ぐコーディネーターの活用

現在、地域学校協働活動推進員が各校のコーディネーターとして活動しているが、更なる学校の要望を受け、「学校運営協議会」に学校と地域を繋ぐ役割を期待したい。学校運営協議会委員が役割を担い、地域の人的・物的資源の活用をサポートしていくことは、社会に開かれた教育課程の実現に繋がる。

② ふるさと学習の提案採用に向けて

ふるさと学習のゴールは「発表・提案・提言」となるが、市や関係団体が積極的に話を聴き、現実的なアドバイスや採用の有無について助言することが必要である。声を聴いただけで終わっては、児童生徒の評価には繋がらない。一生懸命探究してきた成果がどこまで通用するものか、子どもたちは答えを欲しており、そこから評価反省し、次に繋げていくものである。

③ ふるさと学習のめざす姿

少子化の今だからこそ、新庄の子ども一人ひとりが「ふるさと新庄」を知り、考える経験が重要である。小・中・義務教育学校において、新庄を本気で探究した経験は、新庄市に将来の自分の居場所を見つけることであり、自分がふるさとに必要とされているという自己有用感を醸成するものである。市や地域、関係団体と連携を図り、児童生徒にふるさと新庄を大いに探究させていきたい。

【市内中学校の「新庄開府４００年」をテーマにした一例】

「新庄を翔ける　～人に出会い、街に出会い、未来に出会う～」

３カ年計画（今年度１年次）

「新庄開府４００年」事業と関わりながら、学習を進めていく。

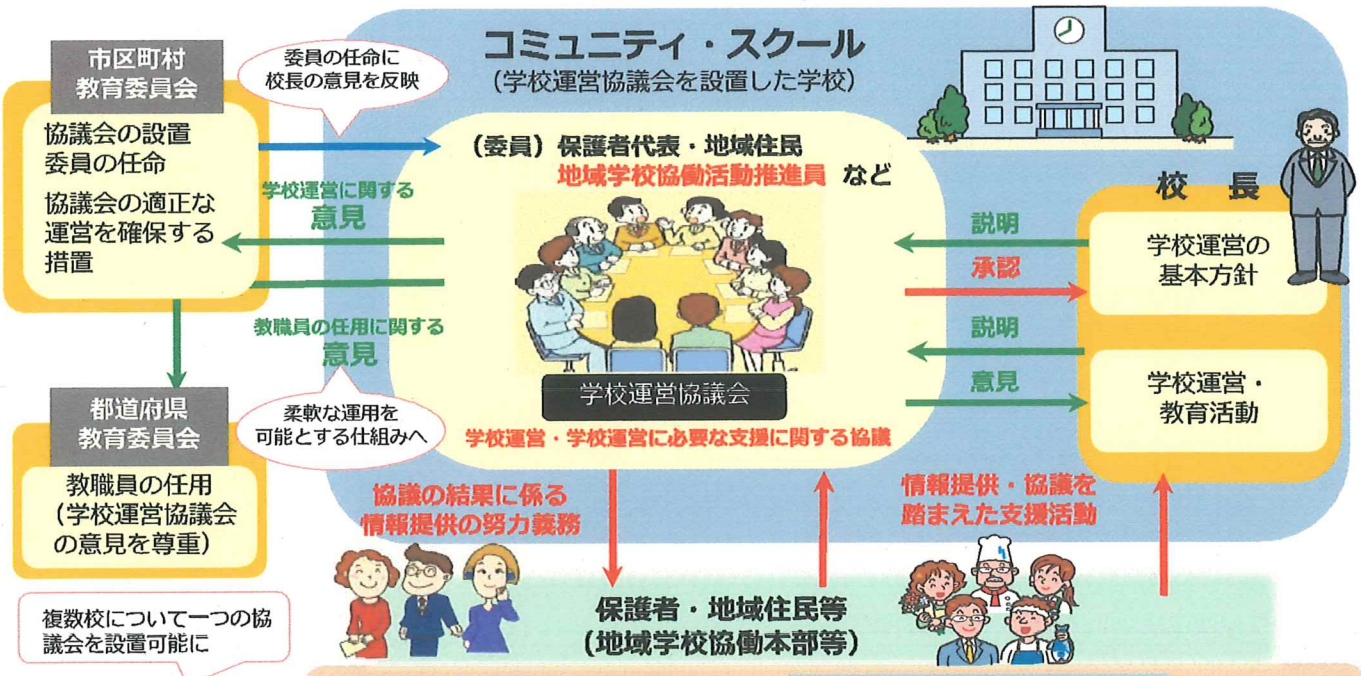
４００年受け継がれてきた人々の思いを解き明かしながら、新しい未来を模索していく学習を行っていく。

１年生の今年度は「新庄市を学ぶ」活動を展開する。フィールドワークに積極的に出ながら、新庄市の歴史や風土、暮らす人々と出会い、新庄市が紡いできた伝統を解き明かす。

新庄市を内側から観ていく。

別紙１

コミュニティ・スクールの仕組み（制度概要）

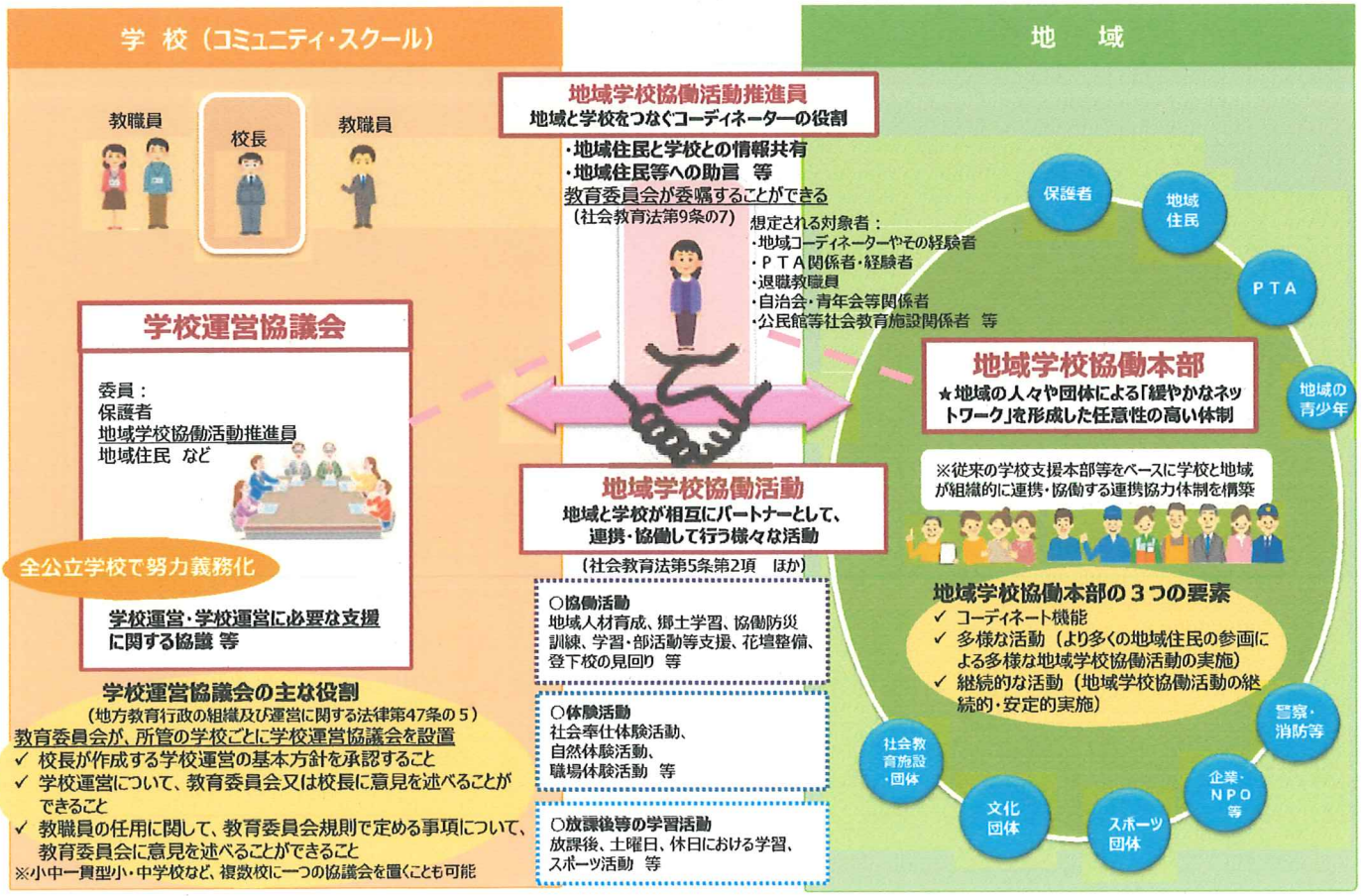


複数校について一つの協議会を設置可能に

小中一貫型小・中学校など

＜学校運営協議会の主な役割＞　地教行法第四十七条の五

教育委員会が、学校や地域の実情に応じて学校運営協議会を設置

- ○　校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- ○　学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができること
- ○　教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べることができること

学校と地域の連携・協働体制（コミュニティ・スクールと地域学校校協働活動）